

慶應義塾大学大学院 文学研究科 修士課程

哲学・倫理学専攻 倫理学分野

3つのポリシー

【ディプロマ・ポリシー】

哲学・倫理学専攻倫理学分野では、課程修了時に学生が身につけるべき能力として以下のものを定め、学則に従って修了要件を満たし、修士論文審査に合格した学生についてはこの能力を身につけた者と認め、修士（哲学）の学位を与える。

1. 倫理学研究において、研究領域全般に関する専門知識を身につけ、外国語（英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語など）を駆使して専門的な研究を展開し、その成果を母語あるいは外国語で発表できる。
2. 倫理学の研究を内容として母語あるいは外国語で修士論文を執筆して審査に合格し、さらに、修士論文のテーマに関連する領域については包括的な専門知識を有し、その領域の研究に貢献をすることができる。
3. 専門研究を通じて多様な思想の歴史的、文化的特性を理解するとともに、現代における重要な倫理的問題を認識し、それを解決していくための議論や実践に資する研究能力を有することで、高度なリテラシーと批判的分析能力を備えた研究者、教育者、実務家として現代社会に貢献できる。

【カリキュラム・ポリシー】

哲学・倫理学専攻倫理学分野では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として以下のカリキュラムを編成する。

1. 哲学・倫理学専攻倫理学分野では修士課程の全在学期間を通じて履修可能な、母語ならびに外国語による少人数演習科目を設置する。倫理学の領域において研究を展開するために必要な専門知識、研究能力、一次資料分析能力、思考力および議論構成力、プレゼンテーション能力を養成するため、倫理学特殊講義、倫理学特殊講義演習、倫理学原典研究を設置する。教員が実施しているプロジェクトに参加することを通して、専門知識にもとづいた高度な研究を実施する能力を身につけるために、修士課程・後期博士課程共通科目として、プロジェクト科目を設置する。
2. 修士論文の執筆を可能とするため、指導教員の個別論文指導と演習授業を通じ、研究テーマについての知識を深めるとともに、高度な研究能力および母語あるいは外国語による論述力を養う。また、倫理学特殊講義演習において分野全体の修士論文

中間報告会を実施し、複数の教員から指導を受ける機会を提供する。

3. 修士論文審査については、論文題目および主査（原則として指導教員）および2名の副査（専任教員）で構成される審査団の文学研究科委員会による承認、審査団による論文審査、審査団および関連教員による口頭試問を経て、最終的な審査結果を文学研究科委員会で審議、承認する。
4. 海外の大学院への正規留学によって取得した単位を、単位数を限って修了要件に含めることを認める。また、文学研究科独自の支援制度により留学を援助する。
5. 海外への留学等を念頭において、より柔軟な履修を行えるように全ての科目は半期科目として開講する。
6. 領域横断的な研究を可能とするために、慶應義塾大学大学院の他研究科および付属研究所の設置科目、さらに文学研究科と提携関係にある他大学院の設置科目を修了要件として履修することを、単位数を限って認める。

【アドミッション・ポリシー】

哲学・倫理学専攻倫理学分野では、次のような資質を持つ学生を求めている。

1. 卒業論文執筆や専門科目の履修等を通じて自身の専門領域についての理解を深め、倫理学の領域全般についての基礎知識を有している。
2. 大学院において、何をどのような方法で研究したいのかという研究計画、あるいは専門的な知識やスキルの修得をキャリアにどのように活かせるかについて具体的な計画を自ら考え、まとめることができる。
3. 諸言語の一次資料および二次資料を正確かつ批判的に読むことができる基礎的な読解力、学術的内容を母語あるいは外国語で正確に論じることができる基礎的な表現能力を身につけている。また、現代社会の倫理的問題に対して深い関心と理解を有している。
4. 研究資料を講読するための基礎的な第2外国語の能力を有している。
5. 修士課程修了後の研究者、教育者、実務家としてのキャリアについて、積極的に考えている。